部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

入 試 問 題 の 読 解 テ ク ニ ッ ク　- 南アジア -

第１問【2021年度 共通テスト 地理A 第１日程 第３問 問１】

南アジアには様々な気候帯や農業地域が分布している。次の図1中のア～ウは，図2中の地点A～Cのいずれかにおける最多雨月と最少雨月の月降水量を示したものである。地点Aに該当する月降水量と，図2中のE州において小麦と米のうち生産量が多い作物との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

グラフ

自動的に生成された説明

図2

気象庁の資料により作成。

図1

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| 地点Aに該当する月降水量 | ア | ア | イ | イ | ウ | ウ |
| E州において生産量が多い作物 | 小麦 | 米 | 小麦 | 米 | 小麦 | 米 |

★ 解答のポイント ★

南アジアにおける気候と農作物の関係を問う問題である。南アジアでは，冬は大陸から乾いた北東季節風が吹き込み乾燥するが，夏はインド洋から湿った南西季節風が吹き込むため雨が多くなる。ただし，Aは季節風の影響よりも，亜熱帯高圧帯の影響を強く受ける地域であるため，BやCと比べて降水量は少ないと予想される。これをもとに図1を見ると，ウがAであることが分かる。次に米と小麦の生育条件を考えると，小麦の方が耐乾性に優れるため，生産量が多い作物は小麦であることが分かる。よって，正答は⑤である。

★ 読解テクニック ★

南アジアで夏に吹く南西からの季節風は，ヒマラヤ山脈にあたり，北東部に多量の降雨をもたらす。この地域では低地では稲作が，高地では茶の栽培が盛んであるが，いずれも多くの水が必要とされる作物である。また，春や秋にはサイクロンの襲来により多量の降雨があり，甚大な被害が生じることもある。Bはサイクロンの影響で10月が最多雨月となっていると考えられる。一方，インド半島の北西部は，ヒマラヤ山脈のような標高の高い場所がないうえに，亜熱帯高圧帯が卓越する地域であり，大インド（タール）砂漠に代表される乾燥地が広がる。このようにみていくと，気候に地域差を生じさせる気候因子について理解しておくことが重要であることが分かる。気候因子への理解が深まると，気候の地域差が生じる背景が分かり，気候の出題は取り組みやすくなる。

部分サンプル

第２問【2019年度 センター試験 地理B 追試 第４問 問６】

次の表は，1970年と2000年の，インドからの移民数＊を国別に示したものであり，P～Rは，アメリカ合衆国，イギリス，オマーンのいずれかである。国名とP～Rとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

＊インドで生まれ，インド国外に居住する者の数。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| アメリカ合衆国 | P | P | Q | Q | R | R |
| イギリス | Q | R | P | R | P | Q |
| オマーン | R | Q | R | P | Q | P |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1970年 | | 2000年 | |
| 国　名 | 移民数（万人） | 国　名 | 移民数（万人） |
| 1位 | P | 33.7 | Q | 104.1 |
| 2位 | マレーシア | 15.1 | アラブ首長国連邦 | 75.1 |
| 3位 | ミャンマー | 10.0 | P | 52.5 |
| 4位 | Q | 7.0 | カナダ | 31.4 |
| 5位 | コンゴ民主共和国 | 6.8 | R | 31.2 |

*World Bank Statistics*により作成。

★ 解答のポイント ★

Pは1970年では最も関係が深かったが，近年は相対的に低下していることから，旧宗主国であるイギリスと判別できる。Qは順位が上がっているので，近年，ICT産業を通じて経済的な関係が深まったアメリカ合衆国と判別できる。Rは1970年にはなかったものの，2000年に5位以内になっているので，経済発展により建設ラッシュに沸いて出稼ぎの多いオマーンと判別できる。よって，正答は③である。

★ 読解テクニック ★

人が国を越えて移動する背景には，地理的な位置や，経済，歴史，文化など，さまざまな要因がある。例えば，インドからアメリカ合衆国への移民が多いのは，インド国内でICT産業が盛んになり，アメリカ合衆国を留学先や就職先に選ぶ人々が増加したことが大きな要因だが，インドがイギリスの植民地であったこともあり，英語が話せる人が多いことも影響している（→教科書p.257）。また，インドからオマーンへの移民が増えているのは，石油収入による西アジアの経済発展（→教科書p.268〜269）もあるが，位置的に近いということも影響している。なお，インドネシアは同じ東南アジア地域よりも，西アジアのサウジアラビアを出稼ぎ先に選ぶ人が多い。この背景には経済的な事情のほかに，両国はイスラームであり，文化的に共通することが多いこともある。

部分サンプル

第３問【2008年度 センター試験 地理B 本試 第４問 問５】　※新しいデータを用いて，表を更新している。

次の表は，国別の輸出と輸入について，金額の上位3品目とそれぞれの総額に占める割合を示したものであり，P～Rはインド，スリランカ，パキスタンのいずれかである。表中のP～Rと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（単位：％）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 輸出 | | 輸入 | |
| P | 機械類＊ | 11.8 | 機械類 | 21.3 |
| 石油製品 | 9.7 | 原油 | 17.5 |
| 医薬品 | 7.3 | 金（非貨幣用） | 6.0 |
| Q | 繊維品＊＊ | 32.0 | 機械類 | 18.9 |
| 衣類 | 27.8 | 石油製品 | 9.4 |
| 米 | 9.4 | 原油 | 5.0 |
| R | 衣類 | 42.5 | 機械類 | 32.0 |
| 茶 | 12.4 | 繊維品 | 14.5 |
| ゴム製品 | 5.3 | 石油製品 | 7.7 |

＊一般機械と電気機械の合計。

＊＊衣類は含まない。

統計年次は2020年。

『世界国勢図会』により作成。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | P | Q | R |
| ① | インド | スリランカ | パキスタン |
| ② | インド | パキスタン | スリランカ |
| ③ | スリランカ | インド | パキスタン |
| ④ | スリランカ | パキスタン | インド |
| ⑤ | パキスタン | インド | スリランカ |
| ⑥ | パキスタン | スリランカ | インド |

★ 解答のポイント ★

Rは茶が上位にあることから，茶のプランテーションが発達し，同国の主要な輸出品目となっているスリランカと判別できる。Qは繊維品や衣類の割合が高いことから，パキスタンと判別できる。残ったPがインドということになるが，ほかの2か国の輸出入の品目には出てこない，機械類や医薬品が上位にあることからも判別できる。よって，正答は②である。

★ 読解テクニック ★

輸出入上位の品目から国を判別する際は，どの国が問われているのかを確認した後，それぞれの国で特徴的な品目に着目する。例えば出題の3か国では，茶や繊維品，衣類，機械類といった品目がそれにあたる。次に各品目と工業の進展度合いを結びつける。一次産品である茶が輸出品の上位にあることから，工業化があまり進展していないことが類推できる。軽工業である繊維品や衣類が輸出品の上位であることから，工業化は進展しているものの，日用消費財の生産にとどまっていることが類推できる。機械類は軽工業が発展した地域によくみられる品目であるため，工業化が進展していると類推できる（→教科書p.123）。あとは出題された国の経済状態などの知識と組合せれば，正答を導くことができる。

部分サンプル

第４問【2016年度 センター試験 地理B 本試 第３問 問６】

宗教は社会や人々の生活と大きくかかわるとともに，国家の成立にも影響を及ぼすことがある。次の表はインドとその周辺諸国における宗教別人口割合を示したものであり，①～④は，スリランカ，ネパール，パキスタン，バングラデシュのいずれかである。スリランカに該当するものを，表中の①～④のうちから一つ選べ。

（単位：％）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | イスラーム  （イスラム教） | ヒンドゥー教 | 仏教 | その他 |
| ① | 96.4 | 1.9 | 0.0 | 1.7 |
| ② | 89.8 | 9.1 | 0.5 | 0.6 |
| インド | 14.4 | 79.5 | 0.8 | 5.3 |
| ③ | 9.8 | 13.6 | 69.3 | 7.3 |
| ④ | 4.6 | 80.6 | 10.3 | 4.5 |

統計年次は2010年。

*Pew Research Center，The Global Religious Landscape*により作成。

★ 解答のポイント ★

③は仏教の割合が高いため，正答のスリランカであることがすぐに判別できる。④はヒンドゥー教の割合が高いため，ネパールだと判別できる。①と②はいずれもイスラームの割合が高いため，パキスタンとバングラデシュであることが分かるが，②は①よりもヒンドゥー教の割合が少し高いことから，バングラデシュと判別できる。

★ 読解テクニック ★

地域の宗教別人口の割合を問う問題だが，南アジアは国によって信仰される宗教に特徴があるため，比較的解きやすい問題である。スリランカはインドから早くに仏教が伝わり，今日まで仏教徒が多い国である。なお，同国では長年にわたり仏教徒のシンハラ人とタミル人の対立が続いていたことも押さえておきたい。インド・パキスタン・バングラデシュはかつて一つの国であったが，地域で信仰する宗教に違いがあったため，パキスタンとバングラデシュが分離独立した。宗教など文化的な項目の問題には，このような歴史的な経緯を押さえておくことが重要となる。なお，インドはヒンドゥー教のイメージが強いが，信仰の自由は認められているため，ムスリムやキリスト教徒も多い。